

平成26年度 事業計画書

目 次

I 平成 26 年度事業計画（総括）

- | | |
|--------|---|
| 1 基本方針 | 1 |
| 2 重点項目 | 1 |

II 事業計画

- | | |
|------------------------|---|
| 1 調査啓発事業 | 2 |
| 2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 | 3 |
| 3 資源化事業 | 4 |
| (1) 剪定枝等処理事業 | 4 |
| (2) びん・缶・ペットボトル選別事業 | 5 |
| (3) 施設管理受託事業 | 6 |
| ① ごみ資源化工場ほか施設管理事業 | 6 |
| ② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 | 6 |
| ③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 | 7 |
| ④ 札幌市リサイクル団地管理事業 | 7 |
| (4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 | 8 |
| 4 事業系ごみ収集運搬事業 | 9 |

I 平成 26 年度事業計画（総括）

1 基本方針

当社は、廃棄物の適正処理・リサイクルに係る調査研究、各種リサイクル施設の管理運営、事業系ごみの収集運搬などの事業を通じて、快適な都市環境の確保と循環型社会の推進を図る役割を担っている。

家庭ごみについては、札幌市のスリムシティーさっぽろ計画に基づく減量リサイクルが進められる中で、当社が管理、運営するリサイクル施設の役割は重要なものとなっている。

また、事業系ごみについては、収集量はピークの平成 7 年に比べると 40%以上減少しているが、排出された廃棄物の適正処理とリサイクルは、都市環境の保全を図るうえで引き続き重要な課題である。

こうした事業の基盤となる各リサイクル施設は、建設から 15 年以上が経過し設備や建物の老朽化が進んでいる。また、毎日の収集運搬作業を一元管理する「事業者管理システム」も老朽化してきている。

いずれも停滞が許されない事業であることから、時機を失せず、保全、更新を行い、機能の維持を図っていくことが必要である。

また、排出事業者や廃棄物処理行政の動向、ごみ排出量や質など、事業を取り巻く状況は変化してきている。

こうした状況を把握し、顧客満足度の向上に努めながら、ごみ量減少に対応した収集運搬体制の見直しなどの効率化を進めていくとともに、将来の事業につながる新たなリサイクル技術の研究開発などにも取り組み、今後の事業環境の変化に適切に対応した事業展開を図っていくことが必要となっている。

今後とも、事務事業の見直しと経費の節減、顧客や市民への積極的な情報発信、環境マネジメントシステムによる環境負荷の低減などを進めながら、適切な事業運営を行っていく。

2 重点項目

- (1) 顧客満足度の向上
- (2) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化
- (3) 新たなリサイクルへの研究開発
- (4) 事務・事業の見直し及び経費の節減
- (5) 顧客や市民への積極的な情報発信
- (6) 環境マネジメントシステムの的確な運用
- (7) 一般財団法人としての円滑で適正な業務執行

Ⅱ 事業計画

1 調査啓発事業（予算額 66,369千円）

(1) 調査研究事業

① ごみ重量計量システムに関する調査研究

事業所から排出されるごみの実態を把握するため、平成23年10月からごみ重量計量システムを搭載した収集車を導入して、重量データ収集を開始した。平成25年度は、収集データを活用して、排出事業者や業種ごとのごみ種及び嵩比重などの排出実態について分析を行った。これまで同一の収集コースとごみ種でデータ収集を行っていたが、平成26年度は、収集コースとごみ種を変更してデータ収集と分析を行う。

② バイオコークスに関する調査研究

札幌市内から排出される「枝・葉・草」及び「剪定枝」等の植物系バイオマスの有効利用を図るため、平成25年度から札幌市、近畿大学とバイオコークスの事業化に向けた共同研究を行っている。平成26年度も引き続き共同研究を実施し、前処理設備と成形機で構成する研究用の小規模装置を使用して、実証プラントの計画立案に向けた調査研究を行う。

③ 剪定枝チップの堆肥化実験

剪定枝チップの堆肥化実験は、剪定枝チップの有効利用と新たな販路開拓を進めるために、平成24年度から公益財団法人札幌市公園緑化協会と共同研究を開始した。平成26年度は、堆肥の使用可否を検証するために、成分分析と完成した堆肥を使用し植物の栽培試験等を行う。

(2) 普及啓発活動

当社は、資源循環型社会の実現に向けて、ごみ減量及びリサイクルの重要性について、広く市民や顧客に対する普及・啓発に努めていく。

① 広報活動

- i) 年度ごとの事業の実施状況等を報告するために「事業概要」250部を発行する。
- ii) 各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を中心としたデータ集150部を発行する。
- iii) ホームページをリニューアルし、公社事業の情報発信を質・量とも充実する。
- iv) 当公社の事業を始め、廃棄物の処理や分別・リサイクルの取組み事例などを紹介する情報誌「アンパス」8,500部を発行する。

② 各種イベントへの参加

「環境広場さっぽろ2014」などの環境関連イベントに積極的に出展し、ごみ減量及びリサイクルの啓発に努める。

③ イベントへの協賛及び広告掲載等によるPR

「YOSAKOIソーラン祭り」「さっぽろ夏まつり」「さっぽろ雪まつり」等のイベントに協賛し、地域の発展と活性化に寄与するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用し、公社の役割と事業を幅広くPRする。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (予算額 58,728千円)

札幌市内の少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出されるごみから資源物を手選別する事業で、平成21年4月から本格稼働した。

それまで不燃用プリペイド袋で収集されるごみは札幌市の埋立地で埋立処分されていたが、混入されているびん・缶・ペットボトル等の再生可能な資源物を選別することでリサイクルの推進と埋立地の延命化が図られている。

(1) 処理計画

① ごみ受入量 2,400 t/年

② 資源物の選別品目等

選別する資源物、及び選別後の処理は、次のとおりである。

選別品目	選別後の処理
びん・缶・ペットボトル	手選別施設で一括選別後、中沼資源選別センターに搬入して、リサイクル品目ごとに再選別する。
その他金属 電線 小型家電品	金属再生業者に売却する。
軟質プラスチックなど	ごみ資源化工場で固形燃料の原料としてリサイクルする。

3 資源化事業 (予算額 1, 162, 074千円)

(1) 剪定枝等処理事業 (予算額 52, 548千円)

剪定枝等処理事業は、これまで焼却や埋立処分されてきた剪定枝、伐採木などをチップ化してリサイクルを図る事業で、ごみ資源化工場の旧チップ工場破碎施設を使用して、当会社の自主事業として平成20年10月から行っている。

搬入された剪定枝や伐採木などは、破碎処理の工程を経て、スクリーンで大きさ45mm以下のチップに選別され、堆肥や畜舎の敷きわら、木質燃料などに利用されている。

① 処理計画

- | | |
|-------------|------------------|
| i) 剪定枝等受入量 | 4,900 t/年 |
| ii) チップ生産量 | 4,700 t/年 |
| iii) チップ販売先 | 堆肥生産事業者、牧場運営事業者他 |

② 受入する樹木

街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、伐根で受入条件は次のとおりである。

- ・幹は直径80cm以内で、長さが2m以内の剪定枝などの樹木
- ・根は最大寸法（直径または長さ）が1m以内の土を落としたもの

(2) びん・缶・ペットボトル選別事業 (予算額 940,049千円)

平成10年からの「びん・缶・ペットボトル」の分別収集開始に向け、収集された「びん・缶・ペットボトル」を種類毎に選別する資源選別センターを東区中沼と南区駒岡の2ヶ所に建設し、平成10年10月から稼働している。

家庭から排出される「びん・缶・ペットボトル」は札幌市から処理を委託され、事業所から排出されるものの処理は公社の自主事業として実施している。

搬入された「びん・缶・ペットボトル」は国及び容器包装リサイクル協会が定める分別基準により選別・圧縮・梱包等の処理を行い、再商品化事業者へ引渡し再生利用を図っている。

平成21年7月からの家庭ごみ有料化に伴って搬入量が増加したが、中沼資源選別センターでの稼働時間の延長や中沼と駒岡の両資源選別センターでの搬入量調整等によって効率的な施設運用を図っている。

また、不燃用プリペイド袋リサイクル事業で選別された、「びん・缶・ペットボトル」を再選別し再生利用の向上を図っている。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務は、知的障がい者に雇用の場を提供するため福祉団体に委託している。

① 処理計画

i) 処理計画量	家庭系	35,500 t/年 (95.4%)
	事業系	1,700 t/年 (4.6%)
	計	37,200 t/年 (100.0%)

ii) 処理計画内訳

中沼資源選別センター		駒岡資源選別センター	
家庭系	24,100 t/年	家庭系	11,400 t/年
事業系	1,100 t/年	事業系	600 t/年
計	25,200 t/年	計	12,000 t/年
※事業系には、不燃用プリペイド袋から選別された資源物300tを含む			

(3) 施設管理受託事業 (予算額 149,424千円)

当社は、札幌市から4箇所のリサイクル施設等の施設管理業務を受託しており、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき、札幌市から委託を受けて施設の総括管理などを行っている。

① ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (予算額 70,128千円)

札幌市は、事業系の木くず等の適正処理及び再資源化を図るため、平成2年3月、全国に先駆けて事業系の木くず、紙くず等を利用して固形燃料(RDF)を生産するごみ資源化工場を建設した。

当社は、札幌市より施設管理業務を受託し、搬入ごみの計量、手数料徴収、ごみ資源化工場と篠路破碎工場などの施設運営に関する総括管理を行っている。

i) 総括管理業務

ア 管理対象施設

- ・ごみ資源化工場
- ・貯留サイロ
- ・篠路破碎工場及び破碎工場附帯施設

イ ごみ資源化工場処理計画

- ・ごみ受入量 19,000 t/年
- ・固形燃料生産量 17,300 t/年
- ・固形燃料出荷先 北海道地域暖房株
- ・固形燃料出荷量 17,300 t/年

ウ 篠路破碎工場処理計画

- ・ごみ受入量 22,000 t/年

(発寒破碎工場の休止に伴い平成25年度の受入量より9,900t増加する見込み。)

② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (予算額 37,587千円)

札幌市は、平成12年7月から家庭系「容器包装プラスチック」の分別収集を開始した。収集した「容器包装プラスチック」は、中沼プラスチック選別センターで、国及び容器包装リサイクル協会が定める分別基準に適合するように、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者に引き渡され、再生プラスチックや高炉還元剤などにリサイクルされている。

当社は、平成20年10月から札幌市より同センターの施設管理業務を受託し、同市が別途発注している関連業務の管理を含めた総括管理等の業務を行っている。

i) 処理計画

- ア プラスチックごみ受入量 29,900t/年
- イ ベール引き渡し量 25,900t/年

③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (予算額 17,461千円)

札幌市は、平成21年7月から家庭系「雑がみ」の収集を開始した。収集された「雑がみ」は、中沼雑がみ選別センターで選別・圧縮・梱包され、再生紙や固形燃料(RDF)の原料としてリサイクルされている。

当社は、札幌市より同センターの施設管理業務を受託し、同市が別途発注している関連業務の管理を含めた総括管理等の業務を行っている。

なお、この施設の手選別作業の一部は、知的障がい者の雇用を促進するため札幌市が福祉団体に業務を委託している。

i) 処理計画

ア 雑がみ受入量	14,700t/年
イ 再生紙原料引き渡し量	
雑がみ	10,500t/年
<u>主要古紙</u>	<u>800t/年</u>
計	11,300t/年

④ 札幌市リサイクル団地管理事業 (予算額 24,248千円)

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群である。団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業主体が各々行っている。

団地内には、「リサイクル資料館」と福利厚生施設「ふれあいホール」があり、リサイクル資料館の1階では、団地内で操業する各施設の処理工程パネルやリサイクル品等が展示され、2階は団地見学者への総合的な説明の場や、研修・会議等の会場として利用されている。

当社は、リサイクル団地参入企業間の連絡調整、共用施設や団地内道路の維持管理等の業務を札幌市より受託している。

i) 業務内容

- ア リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- イ リサイクル資料館・ふれあいホール・井水ポンプ室の維持管理業務
- ウ リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- エ リサイクル団地雨水調整池等の整備業務
- オ リサイクル団地協議会の開催
- カ その他管理業務

(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 (予算額 20,053千円)

札幌市では、平成9年度から大型ごみを有料化し、それまでのステーション方式での収集を廃止して戸別収集とし、市民からの収集依頼を受け付ける大型ごみ収集センターを設置した。

当会社では、平成11年度から大型ごみ収集センターの管理運営業務を札幌市より受託している。

① 事業計画

- | | | |
|-------------------|--|---------------------|
| i) 業務内容 | 大型ごみ収集・リサイクル品の収集受付及び収集作業を円滑実施するための総括調整 | |
| ii) 業務日 | 土・日曜日及び年末年始を除く毎日
(受付業務は年末年始を除く毎日) | |
| iii) 業務時間 | 8時30分～17時00分 | |
| iv) 受付及び
問合せ件数 | 予 約 | 433,000 件/年 (変更等含む) |
| | 問合せ | 77,000 件/年 |
| | 計 | 510,000 件/年 |
| v) 収集件数 | 344,000 件/年 | |
| vi) 収集個数 | 866,000 個/年 | |
| vii) 収 集 量 | 12,400 t/年 | |

② 業務場所

札幌市中央区大通西2丁目 NTT大通2丁目ビル5階

4 事業系ごみ収集運搬事業 (予算額 6, 194, 053千円)

当社は、約3万1千件の事業者から排出される年間約17万トンの事業系ごみの一元的な収集運搬を行っている。平成6年の事業開始以来、一元的収集の特徴を活かし事業系ごみの減量・リサイクルを積極的に進めるため、焼却する「一般ごみ」の他に、紙くず・木くず・廃プラスチックの「資源化ごみ」、「生ごみ」「びん・缶・ペットボトル」「不燃ごみ」など分別収集メニューを増やし、平成25年度には年間全収集量に占めるリサイクル率は23%を超えている。

一方、分別した紙くずや缶・ペットボトルの民間事業者への流出等の影響で、当社の収集量は13年連続減少し、ごみの嵩比重は増加している。

平成26年度は、収集量の減少傾向に下げ止まりの兆しがあることから、体積を基礎とした収集計画量は平成25年度見込み量に比べ1%減少するものとした。また、重量を基礎とした搬入計画量は、嵩比重の増加などにより0.5%程度増加するものとした。

平成26年度の事業運営に当たっては、収集量に見合った収集体制を整備するため、引き続き収集運搬の効率化を進めるとともに、顧客訪問によるごみの減量・リサイクルの提案やニーズの把握に努め顧客満足度の向上を図る。

1 事業計画

(1) 収集対象事業所

- ① 伝票収集事業所 約 9,200 事業所
- ② プリペイド袋収集事業所 約 21,900 事業所

(2) 年間収集計画量

ごみの種類	収集計画量(m ³)	搬入計画量(t)
一般ごみ	818,500 (822,010)	134,620 (133,240)
資源化ごみ	121,790 (128,760)	9,840 (10,380)
生ごみ	52,910 (52,910)	24,280 (24,280)
不燃用プリペイド	26,620 (26,580)	2,450 (2,450)
剪定枝	1,380 (1,790)	100 (130)
びん・缶・ペットボトル	16,120 (17,440)	1,330 (1,430)
合計	1,037,320 (1,049,490)	172,620 (171,910)

※ ()内は25年度見込み量

2 重点事業

(1) 事業系ごみ収集運搬の効率化

収集運搬量は、平成13年度の総量162万m³に対し、平成25年度は103万m³と約36%減少しており、収集運搬量に見合った車両台数など収集運搬体制の見直しなど効率化を進めていく。

(2) 事業者管理システムの再構築

収集運搬事業に係る事業者管理システムは、現行システムに更新後10年を超えており、老朽化が著しく不具合が目立ってきていることから再構築する。

(3) リサイクル率の向上

① 資源化ごみ(篠路資源化センターで燃料化する可燃ごみ)

一般ごみ等に混入されている紙くず等の分別未実施事業所の分別排出を働きかける。

② 生ごみ

ホテルなど生ごみの分別未実施事業所に対して分別排出を働きかける。

③ びん・缶・ペットボトル

分別未実施事業所に対して分別排出を働きかける。

④ 不適物の適正処理

びん・缶などの再生可能品に混入の不適物の適正排出を呼び掛ける。

(4) ごみ重量計量システムの実証実験

重量計量システムを搭載した収集車両の実証実験を継続し検証する。

Memo

A large rectangular frame for writing a memo. The frame is defined by a thin black border. In the top-left corner, the word "Memo" is written in a simple, sans-serif font. At the bottom-right corner, the corner of the frame is folded over, creating a small triangular shape that suggests a page being turned or a document being closed.